

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る
事後調査報告書
(平成 25 年 3 月分)

国土交通省 近畿地方整備局
大阪市 港湾局
大阪湾広域臨海環境整備センター

目 次

I 事後調査の概要

1. 調査概要	I - 1
2. 工事の実施状況	I - 10
3. 調査結果の概要	I - 11

II 事後調査結果

1. 大気質	II - 1
2. 水質	II - 9

I 事後調査の概要

1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく平成 25 年 3 月（大気質、水質）の事後調査の概要は表－1 に、調査地点の位置は図－1 に示すとおりである。

表－1 事後調査の概要（平成 25 年 3 月）

埋立地周辺における調査

(1) 大気質 表-1(1)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
二酸化硫黄(SO ₂) 窒素酸化物(NO ₂ 、NO) 浮遊粒子状物質(SPM) 風向・風速	1点(南港中央公園局)	3月1日～31日	通年連続

(2) 水質

①一般項目 表-1(2)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
●生活環境項目 水素イオン濃度(pH) 化学的酸素要求量(COD) 溶存酸素量(DO) 全窒素(T-N) 全磷(T-P)	5点×2層 【1, 2, 3, 4, 5】 上層:海面下1m 下層:海底面上2m	3月5日	1回/月
●その他の項目 透明度 水温 塩分 濁度 浮遊物質(SS) クロロフィルa			

②埋立中の濁り等監視(廃棄物処分場周辺)

②-1 放流水、内水及び護岸外周(1) 表-1(3)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
濁度 水温 水素イオン濃度(pH) 化学的酸素要求量(COD) 溶存酸素量(DO)	放流水 1点	3月1日~31日	連続測定
浮遊物質(SS) 不揮発性浮遊物質(FSS)	放流水 1点 内水 1点	3月8,12,19,27日	1回/週
水素イオン濃度(pH) 化学的酸素要求量(COD) 全窒素(T-N)	(処理原水)	3月27日	1回/月
全磷(T-P) n-ヘキサン抽出物質 大腸菌群数		—	4回/年 (5月、8月、11月、2月)
透明度 水温 塩分 浮遊物質(SS) 不揮発性浮遊物質(FSS) 水素イオン濃度(pH) 化学的酸素要求量(COD) 溶存酸素量(DO) 全窒素(T-N) 全磷(T-P) n-ヘキサン抽出物質 大腸菌群数	護岸外周 3点×2層 (護岸から30m) 【19, 20, 21】 上層:海面下1m 下層:海底面上2m n-ヘキサン抽出物質は上層のみ調査 大腸菌群数は上層のみ調査	—	4回/年 (5月、8月、11月、2月)

②-1 放流水、内水及び護岸外周(2) 表-1(4)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
<p>●健康項目等</p> <p>カドミウム</p> <p>全シアン</p> <p>鉛</p> <p>六価クロム</p> <p>砒素</p> <p>総水銀</p> <p>アルキル水銀</p> <p>PCB</p> <p>ジクロロメタン</p> <p>四塩化炭素</p> <p>1,2-ジクロロエタン</p> <p>1,1-ジクロロエチレン</p> <p>シス-1,2-ジクロロエチレン</p> <p>1,1,1-トリクロロエタン</p> <p>1,1,2-トリクロロエタン</p> <p>トリクロロエチレン</p> <p>テトラクロロエチレン</p> <p>1,3-ジクロロプロペン</p> <p>チウラム</p> <p>シマジン</p> <p>チオベンカルブ</p> <p>ベンゼン</p> <p>セレン</p> <p>フェノール類</p> <p>銅</p> <p>亜鉛</p> <p>溶解性鉄</p> <p>溶解性マンガン</p> <p>全クロム</p> <p>陰イオン界面活性剤</p> <p>有機燐</p> <p>ほう素</p> <p>ふっ素</p> <p>アンモニア等(アンモニア、アンモニウム化合物、亜硝酸化合物及び硝酸化合物)</p> <p>1,4-ジオキサン</p>	<p>放流水 1点</p> <p>内水 1点</p> <p>(処理原水)</p> <p>護岸外周 3点×2層</p> <p>(護岸から30m)</p> <p>【19, 20, 21】</p> <p>上層:海面下1m</p> <p>下層:海底面上2m</p>	—	<p>放流水、内水</p> <p>4回/年</p> <p>(5月、8月、11月、2月)</p> <p>護岸外周</p> <p>4回/年</p> <p>(5月、8月、11月、2月)</p>
<p>ダイオキシン類</p>	<p>1,4-ジオキサンは護岸外周のみ調査</p> <p>ダイオキシン類は上層のみ調査</p>		<p>放流水 4回/年</p> <p>(5月、8月、11月、2月)</p> <p>内水 2回/年</p> <p>(8月、2月)</p> <p>護岸外周 1回/年</p> <p>(8月)</p>

②-2 処分場周辺 表-1(5)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
透明度 水温 塩分 濁度 浮遊物質(SS) 不揮発性浮遊物質(FSS) 水素イオン濃度(pH) 化学的酸素要求量(COD) 溶存酸素量(DO) 全窒素(T-N) 全磷(T-P) クロロフィルa n-ヘキサン抽出物質 大腸菌群数	6点(護岸から500m)×2層 【13, 14, 15, 16, 17, 18】 上層:海面下1m 下層:海底面上2m n-ヘキサン抽出物質は上層のみ調査 大腸菌群数は上層のみ調査		4回/年 (5月、8月、11月、2月)
カドミウム 全シアン 鉛 六価クロム 砒素 総水銀 アルキル水銀 PCB ジクロロメタン 四塩化炭素 1,2-ジクロロエタン 1,1-ジクロロエチレン シス-1,2-ジクロロエチレン 1,1,1-トリクロロエタン 1,1,2-トリクロロエタン トリクロロエチレン テトラクロロエチレン 1,3-ジクロロプロペン チウラム シマジン チオベンカルブ ベンゼン セレン 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 フェノール類 銅 亜鉛 溶解性鉄 溶解性マンガン 全クロム 陰イオン界面活性剤 有機燐 1,4-ジオキサン		—	2回/年 (8月、2月)

(3) 底質

①一般項目 表-1(6)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全磷(T-P) 酸化還元電位	4点(表層土) 【2, 3, 4, 5】	—	2回/年 (8月、2月)

②廃棄物等埋立中の監視(廃棄物処分場周辺) 表1-(7)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
<ul style="list-style-type: none"> ●一般項目 粒度組成 含水率 強熱減量 化学的酸素要求量(COD) 硫化物 全窒素(T-N) 全磷(T-P) 酸化還元電位 	1点(表層土) 【15】		2回/年 (8月、2月)
<ul style="list-style-type: none"> ●有害項目<含有量試験> アルキル水銀 総水銀 カドミウム 鉛 有機燐 六価クロム 砒素 シアン PCB 銅 亜鉛 ふっ化物 トリクロロエチレン テトラクロロエチレン ベリリウム クロム ニッケル バナジウム 有機塩素化合物 ジクロロメタン 四塩化炭素 1,2-ジクロロエタン 1,1-ジクロロエチレン シス-1,2-ジクロロエチレン 1,1,1-トリクロロエタン 1,1,2-トリクロロエタン 1,3-ジクロロプロペン チウラム シマジン チオベンカルブ ベンゼン セレン 		—	

(4)騒音・低周波空気振動 表-1(8)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
騒音レベル 低周波空気振動音圧レベル	1点(大阪南港野鳥園)	—	2回/年 (4月、10月)

(5)悪臭 表-1(9)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
臭気強度 臭気指数 特定悪臭物質濃度	1点(大阪南港野鳥園)	—	2回/年 (8月、9月)

(6)陸域生態系(鳥類) 表-1(10)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a、b、c、d】	実施年に該当せず	4回/年(2年おきに実施) (5月、6月、8月、2月)

廃棄物搬入施設周辺における調査

廃棄物搬入施設 表-1(11)

調査項目		調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
大気質	二酸化硫黄(SO ₂) 窒素酸化物(NO ₂ 、NO) 浮遊粒子状物質(SPM) 風向・風速	搬入ルート沿道 大阪基地 : 2点 【No.2、3】 堺基地 : 2点 【No.1、2】 泉大津基地 : 2点 【No.A、B】	—	1週間×4回/年 (5月、8月、11月、2月)
騒音	道路交通騒音レベル	搬入ルート沿道 大阪基地 : 2点 【No.2、3】 堺基地 : 2点 【No.1、2】 泉大津基地 : 2点 【No.A、B】	—	2回/年 (操業時間帯に実施) (5月、11月)
振動	道路交通振動レベル	搬入ルート沿道 大阪基地 : 2点 【No.2、3】 堺基地 : 2点 【No.1、2】 泉大津基地 : 2点 【No.A、B】	—	2回/年 (操業時間帯に実施) (5月、11月)
交通量	廃棄物輸送車 一般車	搬入ルート沿道 大阪基地 : 3点 【No.1、2、4】 堺基地 : 4点 【No.1、2、3、4】 泉大津基地 : 3点 【No.A、B、C】	—	4回/年 (操業時間帯に実施) (5月、8月、11月、2月)
悪臭	臭気強度 臭気指数	敷地境界 大阪基地 : 2点(風上、風下) 【No.5、6】 堺基地 : 2点(風上、風下) 【No.5、6】 泉大津基地 : 2点(風上、風下) 【No.D1、D2】	—	2回/年 (6月、8月)

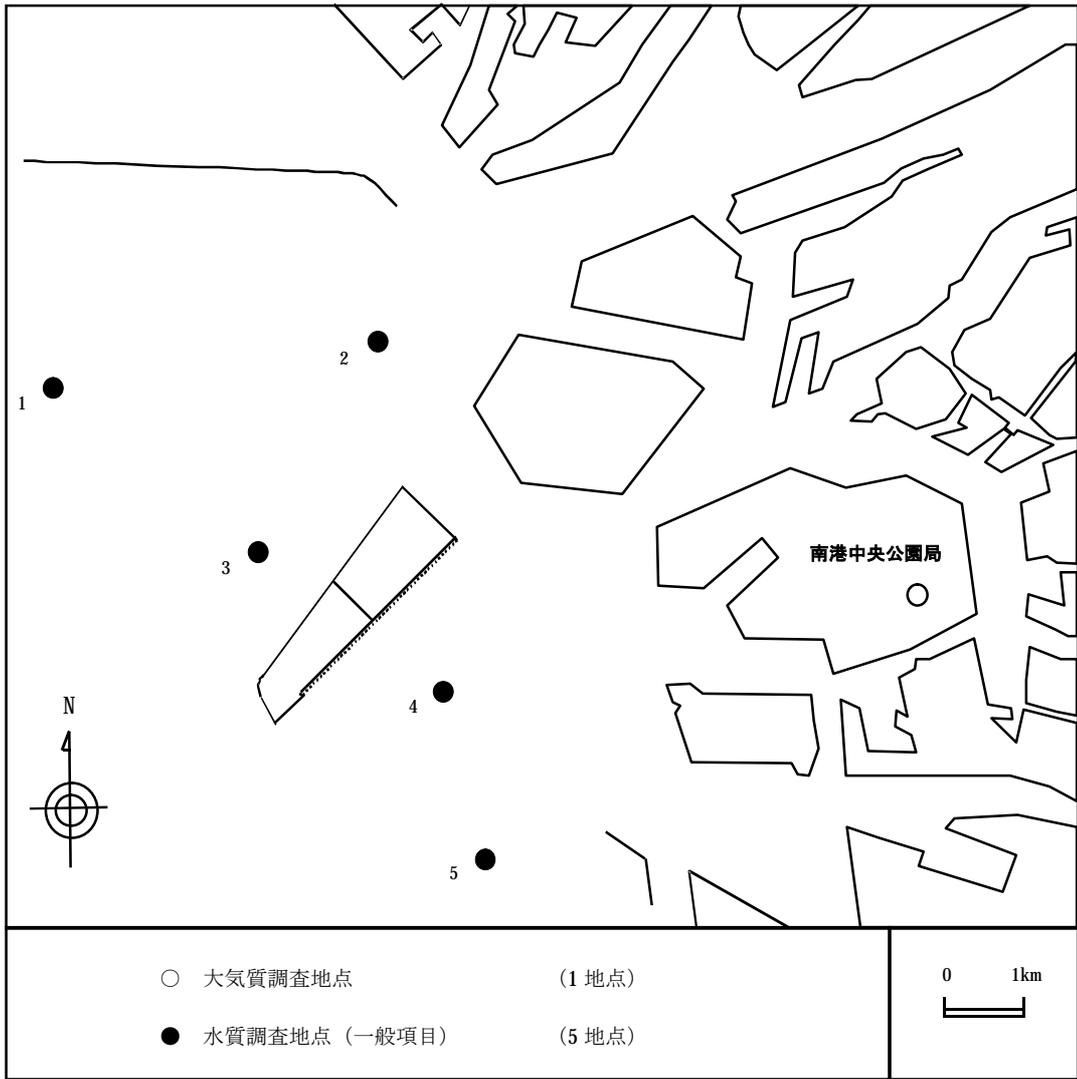


図-1(1) 大気質、水質(一般項目)の調査地点(平成 25 年 3 月)

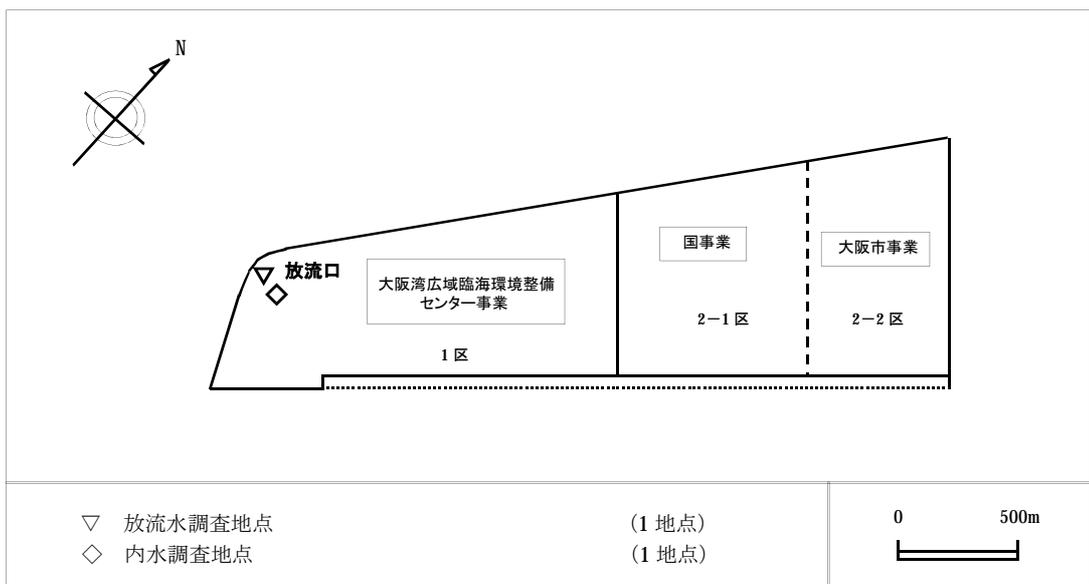
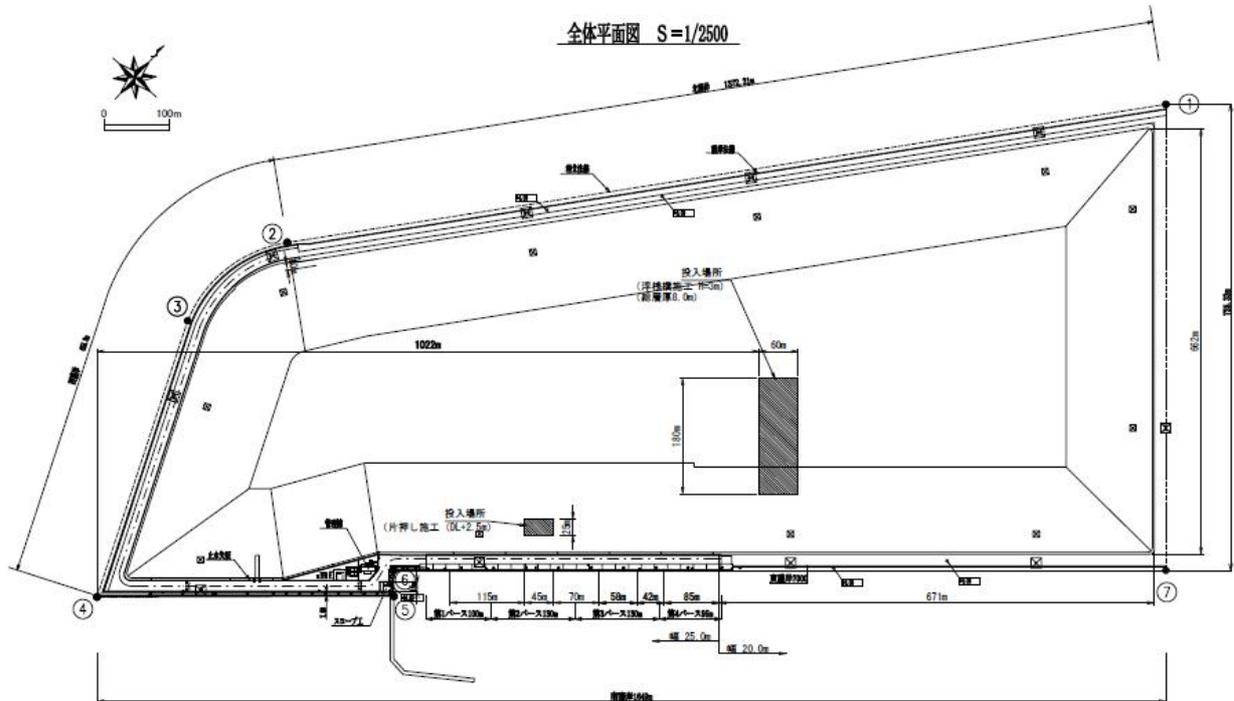


図-1(2) 水質の調査地点(埋立中:放流水、内水)(平成 25 年 3 月)

2. 工事の実施状況

平成 25 年 3 月の工事の実施状況は、図-2 に示すとおりである。

平成 25 年 3 月度埋立施工実績



埋立量 (m ³)	進捗率 (%)
2,106,069	15.1

埋立容量(計画量) : 13,975,000 m³

図-2 工事の実施状況 (平成 25 年 3 月)

3. 調査結果の概要

埋立地周辺における調査

(1) 大気質 [大気質様式第1号～8号]

1) 二酸化硫黄 (SO₂) 【環境基準値：日平均値：0.04ppm 以下、1時間値：0.1ppm 以下】

二酸化硫黄(SO₂)の月平均値は、**0.008ppm**であった。また、日平均値の最高値は**0.016ppm**、1時間値の最高値は**0.033ppm**であり、環境基準値を下回っていた。

2) 二酸化窒素 (NO₂) 【環境基準値：日平均値 0.04～0.06ppm のゾーン内またはそれ以下】

二酸化窒素(NO₂)の月平均値は、**0.030ppm**であった。また、日平均値の最高値は**0.050ppm**であり、環境基準値の範囲内であった。

3) 浮遊粒子状物質 (SPM) 【環境基準値：日平均値 0.10mg/m³以下、1時間値：0.20 mg/m³以下】

浮遊粒子状物質 (SPM) の月平均値は、**0.034mg/m³**であった。また、日平均値の最高値は**0.078mg/m³**、1時間値の最高値は**0.103mg/m³**であり、環境基準値を下回っていた。

注：大気質の調査結果（大阪市環境局による常時測定結果）は、現時点では未確定値である。

(2) 水質

①一般項目 [水質様式第1号]

1) 水素イオン濃度 (pH) 【環境基準値：7.8 以上 8.3 以下】

水素イオン濃度 (pH) は上層で**8.1～8.4**、下層でいずれも**8.1**であり、上層では調査地点**2、3、4**及び**5**において環境基準値を上回っていたが、下層では全ての調査地点において環境基準値の範囲内であった。

環境基準値を超過した調査結果は、上層における調査地点**2 (8.4)**、調査地点**3 (8.4)**、調査地点**4 (8.4)**、調査地点**5 (8.4)**であったが、事業実施前の当海域における水質調査の結果(平成12年度)は上層で**7.7～8.6**であり、この範囲内であるため、本事業の影響によるものではないと考えられる。

2) 化学的酸素要求量 (COD) 【環境基準値：3mg/L 以下】

化学的酸素要求量 (COD) は上層で**4.5～5.1mg/L**、下層で**2.3～2.9mg/L**の範囲にあり、上層では全ての調査地点において環境基準値を上回っていたが、下層では全ての調査地点で環境基準値を下回っていた。

環境基準値を超過した調査結果は、上層における調査地点**1 (4.8mg/L)**、調査地点**2 (5.0mg/L)**、調査地点**3 (4.5mg/L)**、調査地点**4 (5.1mg/L)**、調査地点**5 (5.0mg/L)**であったが、事業実施前の当海域における水質調査の結果(平成12年度)は上層で**1.6～4.9mg/L**であり、調査地点**1**及び**3**はこの範囲内にあるため、本事業の影響によるものではないと考

えられる。また、調査地点 2、4 及び 5 ではこの範囲を上回っていたものの概ね同程度であり、本事業の影響によるものではないと考えられる。

3) 溶存酸素量 (DO) 【環境基準値：5mg/L 以上】

溶存酸素量 (DO) は上層で 11~12mg/L、下層で 8.6~9.6mg/L の範囲にあり、上層、下層共に全ての調査地点において環境基準値を満たしていた。

4) 全窒素 (T-N) 【環境基準値：0.6mg/L 以下】

全窒素 (T-N) は上層で 0.63~0.85mg/L、下層で 0.21~0.38mg/L の範囲にあり、上層では全ての調査地点において環境基準値を上回っていたが、下層では全ての調査地点において環境基準値を下回っていた。

環境基準値を超過した調査結果は、上層における調査地点 1 (0.85mg/L)、調査地点 2 (0.67mg/L)、調査地点 3 (0.82mg/L)、調査地点 4 (0.63mg/L)、調査地点 5 (0.65mg/L) であったが、事業実施前の当海域における水質調査の結果 (平成 12 年度) は上層で 0.46~2.1mg/L であり、いずれもこの範囲内にあるため、本事業の影響によるものではないと考えられる。

5) 全燐 (T-P) 【環境基準値：0.05mg/L 以下】

全燐 (T-P) は上層で 0.042~0.050mg/L、下層で 0.019~0.039mg/L の範囲にあり、上層、下層共に全ての調査地点において環境基準値を下回っていた。

6) 濁度

濁度は上層で 2~4 度(カリン) の範囲であり、下層でいずれも 1 度(カリン)であった。

7) 浮遊物質 (SS)

浮遊物質 (SS) は上層で 4~5mg/L、下層で 1~4mg/L の範囲であった。

8) カロフィル a

カロフィル a は上層で 25~36 μ g/L、下層で 3~22 μ g/L の範囲であった。

②-1 放流水及び内水 [水質様式第 6~9 号]

1) 放流水 (連続測定)

濁度は、3.9~4.5 度(カリン) (平均値 4.2 度(カリン)) の範囲であった。

水温は、10.3~10.9℃ (平均値 10.5℃) の範囲であった。

pH は、6.5~6.8 の範囲にあり、測定期間を通じて放流水の基準値及び管理目標値 (5.0 以上 9.0 以下) の範囲内であった。

COD は、12.0~12.4mg/L (平均値 12.2mg/L) の範囲にあり、測定期間を通じて放流水の基準値 (90mg/L) 及び管理目標値 (40mg/L) を下回っていた。

DO は、**8.8~9.4mg/L**（平均値 **8.9mg/L**）であった。

2) 放流水、内水

・放流水

SS は、**8.0mg/L** であり、放流水の基準値（**60mg/L**）及び管理目標値（**50mg/L**）を下回っていた。

FSS は、**4.3mg/L** であった。

pH は、**7.0** であり、放流水の基準値及び管理目標値（**5.0** 以上 **9.0** 以下）の範囲内であった。

COD は、**16mg/L** であり、放流水の基準値（**90mg/L**）及び管理目標値（**40mg/L**）を下回っていた。

T-N は、**5.1mg/L** であり、放流水の基準値（**120mg/L**、日間平均 **60mg/L**）及び管理目標値（**30mg/L**）を下回っていた。

・内水

SS は、**45mg/L** であった。

FSS は、**22mg/L** であった。

pH は **8.5**、COD は **23mg/L**、T-N は **7.0mg/L** であった。

②-2 処分場周辺

3月 は実施せず。

(3) 底質

3月 は実施せず。

(4) 騒音・低周波空気振動

3月 は実施せず。

(5) 悪臭

3月 は実施せず。

(6) 陸域生態系（鳥類）

今年度は実施せず。

廃棄物搬入施設周辺における調査

3月 は実施せず。

《 参 考 》

■環境基準値等（本報告関係分）

1. 環境基準

(1)大気質

項目	基準値
二酸化硫黄 (SO ₂)	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、 1 時間値が 0.1ppm 以下であること。
二酸化窒素 (NO ₂)	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。
浮遊粒子状物質 (SPM)	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m³ 以下であり、かつ、 1 時間値が 0.20mg/m³ 以下であること。

(2)水質

①水質（海域）

類型	項目	基準値
B	水素イオン濃度 (pH)	7.8 以上 8.3 以下
	化学的酸素要求量 (COD)	3mg/L 以下
	溶存酸素量 (DO)	5mg/L 以上
	n-ヘキサン抽出物質 (油分等)	検出されないこと
III	全窒素 (T-N)	0.6mg/L 以下
	全磷 (T-P)	0.05mg/L 以下

- 注) 1. 水素イオン濃度、化学的酸素要求量、溶存酸素量及び n-ヘキサン抽出物質の基準値は日間平均値、全窒素及び全磷の基準値は年間平均値である。
2. 化学的酸素要求量の環境基準の評価方法については、次のとおり定められている。
公共用水域における環境基準（BOD 又は COD）の評価方法について（昭和 52 年環水管 52 号）
- (1) 環境基準の水域類型を指定する際の水質測定結果については、年間を通じた日間平均値の全データのうち、あてはめようとする類型の基準値を満たしているデータ数を占める割合をもって評価するが、その割合が **75%**以上ある場合、その基準に適合しているものと評価する。
なお、環境基準値と比較して水質の程度を判断する場合は、以下の方法により求めた「**75% 水質値**」を用いるものとする。
75%水質値・・・年間の日平均値の全データをその値の小さいものから順に並べ **0.75×n** 番目（n は日間平均値のデータ数）のデータ値をもって **75%水質値**（**0.75×n** 番目が整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとる）とする。
- (2) 環境基準点における水質測定結果の環境基準に対する適合性についての判断方法について
環境基準点において、年間を通じて環境基準に適合していたか否かを判断する場合には、(1)と同様に年間を通じた日間平均値の全データのうち **75%**以上のデータが基準値を満足している基準点を適合しているものと判断する。
- (3) 複数の環境基準点を持つ水域における水質測定結果の環境基準に対する適合性についての判断方法について
これについては、当該環境基準類型あてはめ水域内のすべての環境基準地点において環境基準に適合している場合に、当該水域が環境基準を達成しているものと判断する。

2. 規制基準等

(1)水質

①水質（放流水・一般項目）

処分場	項目	基準値	管理目標値
管理型最終処分場	水素イオン濃度 (pH)	5.0 以上 9.0 以下	同左
	化学的酸素要求量 (COD)	90mg/L 以下	40mg/L 以下
	浮遊物質 (SS)	60mg/L 以上	50mg/L 以下
	全窒素 (T-N)	120mg/L (日間平均 60mg/L) 以下	30mg/L 以下
	全リン (T-P)	16mg/L (日間平均 8mg/L) 以下	4mg/L 以下
	ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (n-ヘキサン抽出物質)	鉱油類含有量 : 5mg/L 以下 動植物油脂類含有量 : 30mg/L 以下	同左
	大腸菌群数	日間平均 3000 個/cm ³ 以下	同左

- 注) 1. 放流水の基準値は、一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令別表第一より抜粋
2. 管理目標値は、事後調査計画における調査結果の評価や対策を実施するために定めたもの。

3. 事業実施前調査結果（平成 12 年度・水質（一般項目））

項 目	区 分	事業実施前調査 (平成 12 年度・調査地点 1～5)	
		最小値 ～ 最大値 (m/n)	平均値 (m/n)
水素イオン濃度 (pH) [-]	上層	7.7 ～ 8.6 (13/60)	—
	下層	7.8 ～ 8.3 (0/60)	—
化学的酸素要求量 (COD) [mg/L]	上層	1.6 ～ 4.9 (34/60)	3.2 ～ 3.9 (5/5)
	下層	1.2 ～ 3.6 (4/60)	2.0 ～ 2.2 (0/5)
溶存酸素量 (DO) [mg/L]	上層	5.2 ～ 14 (0/60)	8.6 ～ 9.8
	下層	0.6 ～ 11 (14/60)	6.2 ～ 6.9
全窒素 (T-N) [mg/L]	上層	0.46 ～ 2.1	0.91 ～ 1.1 (5/5)
	下層	0.29 ～ 0.82	0.44 ～ 0.49 (0/5)
全磷 (T-P) [mg/L]	上層	0.021 ～ 0.15	0.061 ～ 0.098 (5/5)
	下層	0.020 ～ 0.25	0.038 ～ 0.063 (1/5)

- 注) 1. 「最大～最小」の値は、調査地点 1～5 における全調査地点の最小値と最大値を示す。
 2. m：環境基準を満たしていないデータ数、n：総データ数を示す。
 3. 「平均値」の値は、各調査地点における年平均値の最小～最大を示しているが、化学的酸素要求量の「平均値」は各調査地点における 75%値の最小～最大を示す。

II 事後調查結果

大気質測定結果総括表[平成25年3月分]

項 目		測 定 局
		南港中央公園
二酸化硫黄	有効測定日数（日）	31
	日平均値が0.04ppmを超えた日数（日）	0
	測定時間数（時間）	738
	1時間値が0.1ppmを超えた時間数（時間）	0
二酸化窒素	有効測定日数（日）	31
	日平均値が0.04ppm以上0.06ppm以下の日数（日）	9
	日平均値が0.06ppmを超えた日数（日）	0
	測定時間数（時間）	739
	1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間数（時間）	0
	1時間値が0.2ppmを超えた時間数（時間）	0
浮遊粒子状物質	有効測定日数（日）	27
	日平均値が0.10mg/m ³ を超えた日数（日）	0
	測定時間数（時間）	691
	1時間値が0.20mg/m ³ を超えた時間数（時間）	0
備 考		

注：大気質の調査結果(大阪市環境局による常時測定結果)は、現時点では未確定値である。

二酸化硫黄測定結果[平成25年3月分]

測 定 局		南港中央公園	
項 目		日平均値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)
日	1 (金)	0.008	0.016
	2 (土)	0.004	0.005
	3 (日)	0.004	0.007
	4 (月)	0.008	0.015
	5 (火)	0.012	0.023
	6 (水)	0.011	0.018
	7 (木)	0.011	0.022
	8 (金)	0.013	0.021
	9 (土)	0.016	0.024
	10 (日)	0.009	0.018
別	11 (月)	0.005	0.008
	12 (火)	0.010	0.018
	13 (水)	0.008	0.023
	14 (木)	0.003	0.004
	15 (金)	0.008	0.022
	16 (土)	0.014	0.027
	17 (日)	0.013	0.026
	18 (月)	0.006	0.011
	19 (火)	0.010	0.026
	20 (水)	0.007	0.016
値	21 (木)	0.004	0.009
	22 (金)	0.010	0.024
	23 (土)	0.006	0.012
	24 (日)	0.010	0.033
	25 (月)	0.006	0.011
	26 (火)	0.005	0.008
	27 (水)	0.006	0.014
	28 (木)	0.006	0.014
	29 (金)	0.010	0.024
	30 (土)	0.005	0.010
	31 (日)	0.009	0.021
有効測定日数 (日)		31	
測定時間 (時間)		738	
月平均値 (ppm)		0.008	
日平均値の最高値 (ppm)		0.016	
1時間値の最高値 (ppm)		0.033	
1時間値が0.1ppmを超えた時間数 (時間)		0	
日平均値が0.04ppmを超えた日数 (日)		0	

- 注：1. 1日の測定時間が20時間未満であれば（ ）書にする。その場合、日平均値の集計の対象としない。
 2. 大気質の調査結果（大阪市環境局による常時測定結果）は、現時点では未確定値である。

一酸化窒素測定結果[平成25年3月分]

測 定 局		南港中央公園	
項 目		日 平 均 値 (ppm)	1 時 間 値 の 最 高 値 (ppm)
日	1 (金)	0.041	0.145
	2 (土)	0.001	0.004
	3 (日)	0.001	0.002
	4 (月)	0.014	0.091
	5 (火)	0.007	0.034
	6 (水)	0.042	0.153
	7 (木)	0.030	0.106
	8 (金)	0.014	0.066
	9 (土)	0.019	0.132
	10 (日)	0.002	0.013
別	11 (月)	0.003	0.009
	12 (火)	0.020	0.070
	13 (水)	0.030	0.167
	14 (木)	0.002	0.008
	15 (金)	0.021	0.064
	16 (土)	0.043	0.180
	17 (日)	0.003	0.012
	18 (月)	0.001	0.008
	19 (火)	0.008	0.049
	20 (水)	0.010	0.032
値	21 (木)	0.004	0.011
	22 (金)	0.015	0.054
	23 (土)	0.002	0.008
	24 (日)	0.003	0.016
	25 (月)	0.002	0.010
	26 (火)	0.003	0.010
	27 (水)	0.015	0.045
	28 (木)	0.029	0.180
	29 (金)	0.037	0.146
	30 (土)	0.001	0.005
	31 (日)	0.003	0.013
有 効 測 定 日 数 (日)		31	
測 定 時 間 (時間)		739	
月 平 均 値 (ppm)		0.014	
日 平 均 値 の 最 高 値 (ppm)		0.043	
1 時 間 値 の 最 高 値 (ppm)		0.180	

注：1. 1日の測定時間が20時間未満であれば（ ）書にする。その場合、日平均値の集計の対象としない。
 2. 大気質の調査結果（大阪市環境局による常時測定結果）は、現時点では未確定値である。

窒素酸化物(NO+NO2)測定結果[平成25年3月分]

測定局		南港中央公園			
項目		日平均値		1時間値の 最高値 (ppm)	
		(ppm)	NO2/ (NO+NO2) (%)		
日	1 (金)	0.079	48.2	0.212	
	2 (土)	0.008	91.9	0.018	
	3 (日)	0.008	93.4	0.013	
	4 (月)	0.045	68.5	0.142	
	5 (火)	0.041	82.2	0.084	
	別	6 (水)	0.092	54.1	0.217
		7 (木)	0.074	59.0	0.161
		8 (金)	0.048	70.5	0.127
		9 (土)	0.062	69.7	0.205
		10 (日)	0.029	92.0	0.086
		11 (月)	0.023	85.1	0.051
		12 (火)	0.065	70.0	0.128
		13 (水)	0.066	54.5	0.234
		14 (木)	0.015	83.1	0.027
		15 (金)	0.061	65.6	0.108
値		16 (土)	0.082	48.1	0.237
		17 (日)	0.034	91.8	0.061
		18 (月)	0.020	94.3	0.050
		19 (火)	0.041	79.7	0.132
		20 (水)	0.054	81.5	0.085
	21 (木)	0.020	82.6	0.044	
	22 (金)	0.054	72.1	0.106	
	23 (土)	0.020	91.6	0.044	
	24 (日)	0.030	88.9	0.072	
	25 (月)	0.019	88.4	0.042	
	26 (火)	0.024	85.5	0.039	
	27 (水)	0.056	73.3	0.099	
	28 (木)	0.073	60.4	0.250	
	29 (金)	0.073	49.8	0.199	
	30 (土)	0.017	91.2	0.035	
	31 (日)	0.026	88.9	0.053	
有効測定日数 (日)		31			
測定時間 (時間)		739			
月平均値 (ppm)		0.044			
日平均値の最高値 (ppm)		0.092			
1時間値の最高値 (ppm)		0.250			
月平均値 NO2/(NO+NO2) (%)		68.6			

注：1. 1日の測定時間が20時間未満であれば（ ）書にする。その場合、日平均値の集計の対象としない。

2. NO2/(NO+NO2)の算定方法は、下記のとおりである。

日(月)平均値NO2/(NO+NO2)

$$= \frac{\text{(NO及びNO2が同時測定されている時間のNO2濃度の日(月)間にわたる総和)}}{\text{(NO及びNO2が同時測定されている時間のNO+NO2濃度の日(月)間にわたる総和)}}$$

3. 大気質の調査結果（大阪市環境局による常時測定結果）は、現時点では未確定値である。

浮遊粒子状物質測定結果[平成25年3月分]

測 定 局		南港中央公園	
項 目		日平均値 (ng/m^3)	1時間値の 最高値 (ng/m^3)
日	1 (金)	0.030	0.051
	2 (土)	0.028	0.044
	3 (日)	0.019	0.033
	4 (月)	0.022	0.033
	5 (火)	0.047	0.079
	6 (水)	0.053	0.081
	7 (木)	0.043	0.078
	8 (金)	0.054	0.080
	9 (土)	0.078	0.100
	10 (日)	0.052	0.103
別	11 (月)	0.018	0.028
	12 (火)	0.030	0.068
	13 (水)	(0.028)	(0.051)
	14 (木)	0.017	0.032
	15 (金)	0.023	0.038
	16 (土)	0.036	0.061
	17 (日)	(0.054)	(0.068)
	18 (月)	(0.026)	(0.037)
	19 (火)	0.042	0.072
	20 (水)	(0.051)	(0.070)
値	21 (木)	0.013	0.025
	22 (金)	0.024	0.050
	23 (土)	0.029	0.042
	24 (日)	0.033	0.051
	25 (月)	0.030	0.046
	26 (火)	0.020	0.031
	27 (水)	0.026	0.043
	28 (木)	0.032	0.068
	29 (金)	0.044	0.063
	30 (土)	0.024	0.036
	31 (日)	0.029	0.045
有効測定日数 (日)		27	
測定時間 (時間)		691	
月平均値 (ng/m^3)		0.034	
日平均値の最高値 (ng/m^3)		0.078	
1時間値の最高値 (ng/m^3)		0.103	
1時間値が $0.20\text{ng}/\text{m}^3$ を超えた時間数 (時間)		0	
日平均値が $0.10\text{ng}/\text{m}^3$ を超えた日数 (日)		0	

注：1. 1日の測定時間が20時間未満であれば（ ）書にする。その場合、日平均値の集計の対象としない。
 2. 大気質の調査結果（大阪市環境局による常時測定結果）は、現時点では未確定値である。

風向別出現頻度及び風向別平均風速[平成25年3月分]

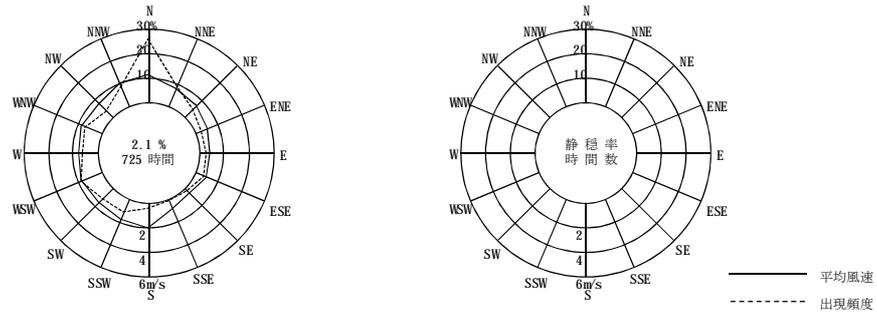
項目 \ 方位	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	N	CALM	測定時間数
度数	68	35	19	20	29	10	6	13	40	39	64	43	51	27	61	185	15	725
頻度 (%)	9.4	4.8	2.6	2.8	4.0	1.4	0.8	1.8	5.5	5.4	8.8	5.9	7.0	3.7	8.4	25.5	2.1	-
平均風速 (m/s)	1.6	1.4	1.1	0.9	1.0	0.6	0.9	2.0	1.7	1.5	1.7	1.5	1.7	1.5	2.0	2.3	0.3	-

注:大気質の調査結果(大阪市環境局による常時測定結果)は、現時点では未確定値である。

測定局: 南港中央公園局

風向風速計高さ: 14.2m

凡例



注:大気質の調査結果(大阪市環境局による常時測定結果)は、現時点では未確定値である。

風配図 [平成25年3月分]

水質調査結果（一般項目）

[平成25年3月分]

調査日：平成25年3月5日

項目	調査点					最小値 ~ 最大値	平均値	
	1	2	3	4	5			
時刻	10:00	9:40	10:15	10:45	10:30	—	—	
透明度 [m]	2.0	2.2	2.0	2.2	2.2	2.0 ~ 2.2	2.1	
水温 [°C]	9.1	9.1	8.9	9.8	9.6	8.9 ~ 9.8	9.3	
	8.9	8.9	9.0	9.1	9.0	8.9 ~ 9.1	9.0	
塩分 [—]	20.1	23.9	19.4	25.0	24.6	19.4 ~ 25.0	22.6	
	31.4	31.5	31.4	31.2	31.5	31.2 ~ 31.5	31.4	
濁度 [度(カリン)]	4	3	3	2	3	2 ~ 4	3	
	1	1	1	1	1	1 ~ 1	1	
浮遊物質 (SS) [mg/L]	5	4	5	4	4	4 ~ 5	4	
	1	4	1	2	2	1 ~ 4	2	
水素イオン濃度 (pH) [—]	8.1	8.4	8.4	8.4	8.4	8.1 ~ 8.4	-	
	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1 ~ 8.1	-	
化学的酸素要求量 (COD) [mg/L]	4.8	5.0	4.5	5.1	5.0	4.5 ~ 5.1	4.9	
	2.3	2.9	2.5	2.9	2.7	2.3 ~ 2.9	2.7	
溶存酸素量 (DO)	濃度 [mg/L]	12	11	12	12	11	11 ~ 12	12
	飽和度 [%]	8.9	8.6	9.1	9.6	8.8	8.6 ~ 9.6	9.0
全窒素 (T-N) [mg/L]	118	111	117	124	113	111 ~ 124	117	
	94	91	96	102	93	91 ~ 102	95	
全窒素 (T-N) [mg/L]	0.85	0.67	0.82	0.63	0.65	0.63 ~ 0.85	0.72	
	0.24	0.38	0.21	0.23	0.28	0.21 ~ 0.38	0.27	
全磷 (T-P) [mg/L]	0.050	0.044	0.050	0.045	0.042	0.042 ~ 0.050	0.046	
	0.023	0.039	0.019	0.021	0.028	0.019 ~ 0.039	0.026	
クロロフィル a (chl. a) [μg/L]	25	27	29	36	35	25 ~ 36	30	
	5	22	3	9	11	3 ~ 22	10	

注) 上段：上層 (海面下1m)
下段：下層 (海底面上2m)

特記事項

水質様式第6号

水質調査結果（埋立中の濁り等監視—廃棄物処分場放流水（連続測定：総括））

[平成 25年 3 月分]

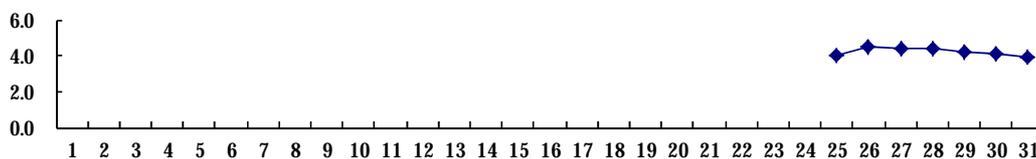
項目	区分	放流水			
		最小値	～	最大値	平均値
濁度	[度(カオリン)]	3.9	～	4.5	4.2
水温	[℃]	10.3	～	10.9	10.5
pH	[－]	6.5	～	6.8	6.7
COD	[mg/L]	12.0	～	12.4	12.2
DO	[mg/L]	8.8	～	9.4	8.9
特記事項	3月1日～24日まで、凝集沈殿調整のため還流中				

水質様式第7号

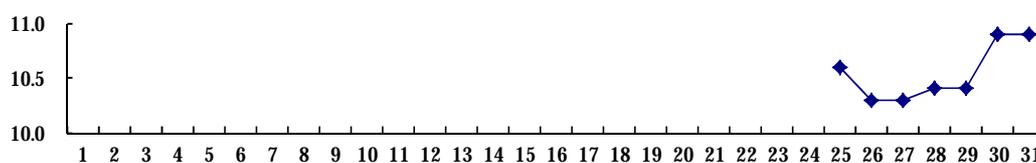
水質調査結果（埋立中の濁り等監視—廃棄物処分場放流水（連続測定））

[平成 25 年 3 月分]

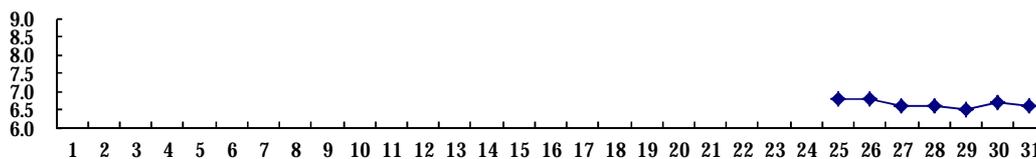
濁度[度(カリン)]



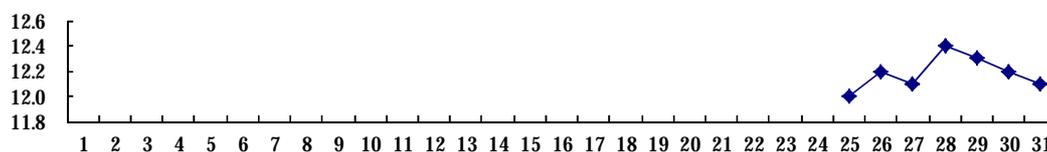
水温[°C]



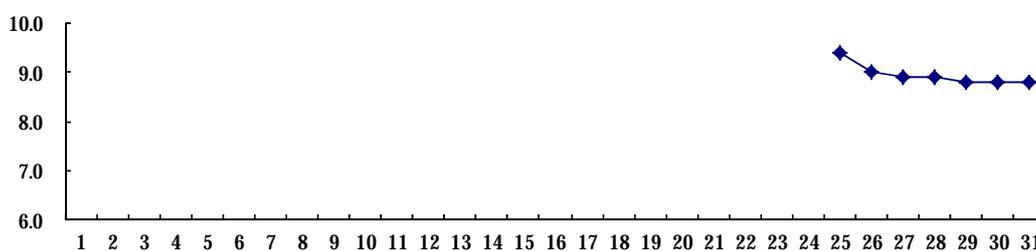
水素イオン濃度(pH)[-]



化学的酸素要求量(COD)[mg/L]



溶存酸素量(DO)[mg/L]



3月1日～24日まで、凝集沈殿調整のため還流中

水質調査結果（埋立中の濁り等監視—廃棄物処分場放流水、内水①） [平成25年3月分]

区分 項目 調査日	放流水			内水		
	時刻	SS [mg/L]	FSS [mg/L]	時刻	SS [mg/L]	FSS [mg/L]
	3/27 (水)	10:00	8.0	4.3	10:15	45
平均値	—	8.0	4.3	—	45	22
最小値	—	8.0	4.3	—	45	22
最大値	—	8.0	4.3	—	45	22

特記事項
3月1日～24日まで、凝集沈殿調整のため還流中

水質様式第9号

水質調査結果（埋立中の濁り等監視—廃棄物処分場放流水、内水②） [平成25年3月分]

調査日：平成25年3月27日

項目	区分	
	放流水	内水
時刻	10:00	10:15
pH[－]	7.0(19℃)	8.5(19℃)
COD[mg/L]	16	23
T-N[mg/L]	5.1	7.0

特記事項 3月1日～24日まで、凝集沈殿調整のため還流中
